

4年目の心境

タカイ (22)
 あだ名：指レンジャー
 前役職：後期会長
 板：G3
 好きな山：無意根山
 行きたい山：無意根山
 内定先：菓子メーカー
 今年の抱負：ロックな滑りを追求



アライ (22)
 あだ名：アライール
 前役職：後期マニュアル係
 板：K2
 好きな山：奥手稲山
 行きたい山：手稲山
 内定先：IT関連
 今年の抱負：1本のスロープで勝負

クロカニストがインタビュー

今年で4年目となる彼らは今、どのような心境で今年の冬を迎えるのだろうか。今まで山スキーにどういう思いを抱いて滑っていたのか。同期でクロカニストである私が二人に聞いてみた。

必要なものは

お金と時間

—こんにちは。今日は十月十六日です。んじゃ早速質問に答えてもらおうか。
 新井「何でも訊いて。全部高井が答えるから。(笑)」
 高井「おう、まかしとけ。」
 —では、まず山スキーの良い所を教えてください？
 新井「いきなり難しい質問だな。」
 高井「まあ、パウダースノーじゃない？ターンするたびに浮く感覚と、転んでも痛くない雪のやさしさがいね。」
 新井「あれはヤバイ。あの浮力感は最高だ。」

—パウダースノーね。他は？
 新井「山小屋だね。奥手—ONZE縦走で泊まる『山の家』がおススメだよ。」
 高井「確かにあそこは良かったな。ギターあるし。」
 —そう、高井の歌っているビデオ見たわ。雰囲気よさそうだった。
 新井「でしょでしょ。」
 高井「あれは正直恥ずかしいさ。削除要請します。」
 —じゃあ、今度は悪い所を教えてください？
 高井「お金がかかることだね。1年目のときは、装備をそろえるのに金かかるからね。でも2年目以降は、それほどでもないよ。」
 新井「そうか？上達すると、板やブーツを替えたくならない？」
 高井「まあね。でもいくらなんでもゴーグルまでこだわる必要はないでしょ。」

新井「そうだな。」
 —お金か。確かにクロカンの方が安上がりだね。装備は無料で借りられるから。
 新井「いや、でもたくさん計画に行くとクロカンも結構使うぞ。ガス代、飯代、ガス代、レンタ代、ガス代…」
 —ガス代言いすぎでしょ。(笑)
 高井「あと時間が結構とられるね。山スキーは歩く会でも危険度の高い活動だから、勉強しなければならないことがたくさんあるから。」
 新井「救命講習とか。ヒッヒッフーとかやるよ。」
 —それ、ラマーズ法だよ。酔いすぎ。
 新井「すまん。次の質問の前にトイレ行ってくるわ。」
 —あいつ、最近酔うの早くない？
 高井「年だよ、年。まあ今年はいろいろあったからな。」
 新井「なんか言ったか？」

今、1年目は

選択の時期

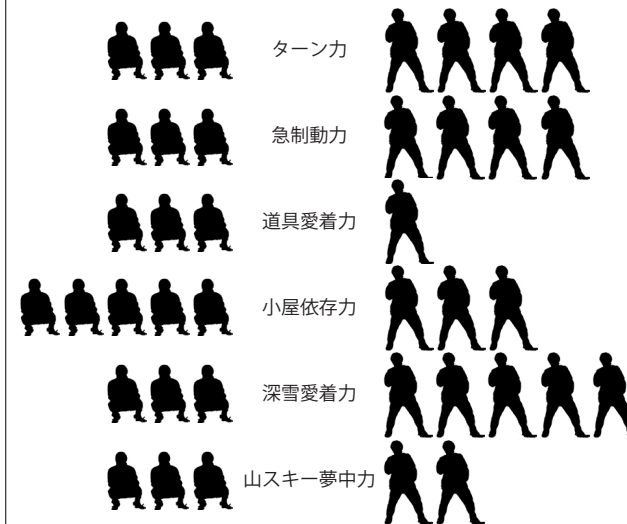
—アライールが戻ってきたので、次の質問に行きます。なぜ山スキーをえらんだん？
 新井「スキーがしたかった。スキーの中でも、テレマークというメジャーではないものをしてきたから。」
 —指レンジャーは？
 高井「俺は、夏に先輩達と無意根山に登ったことがあって、その時の先輩の話聞いて、滑ってみたいと思ったからかな。」
 新井「そして未だに無意根滑れずじまい。」
 高井「そうなんだよ。まあ今年もチャレンジだね。」
 —へえ、そんなエピソードあったん。あとビデオの影響ない？あれ見ると

俺もやってみたくなるわ。
 新井「なるね、なるなる。さすがだね、さくらさん。」
 高井「動画は臨場感あるね。お前も動画撮ってなかったっけ？」
 新井「おう。春香と石狩縦走がホームページにアップされてるよ。」
 —もう撮らんの？
 新井「もう飽きた。(笑)ビデオ撮ると、自分の滑りを犠牲にしなければならぬ。」
 —そりゃ、もったいないわな。
 高井「去年からじゃがーさんが燃えているから、そっちを期待するよ。」
 新井「そうそう。転んだばかりの動画じゃなくて、メリハリのきいたやつをね。」
 —でもビデオってええなあ。自分の滑りを見るのは恥ずかしいって聞くけど、自分や他人の成長度合いがわかるやろ？進化論や。」
 新井「進化論とはおかげさだけど、いい見本になるね。最初は全然滑ることができなかった人が、一年でこ

うも変わるのかっていうのは1年目には励みになるんじゃない？」
 高井「最初は苦労するけど、なんだかんだ皆上手くなるよね。まあ俺はそんなに苦労しなかったけど。」
 —さすが道産子や。んじゃもう一つ頼むわ。山スキーを選んだ理由。
 高井「山スキーはクロカンにも参加できることかな。去年美瑛行っただけ、なかなか面白かったよ。」
 —クロカンから山スキーヤーに転向した人もおるで。
 新井「確かにいたけど、2年目からだ精神的につらくて、自分より一年先に山スキーをやっている同期を見るのが悔しいらしい。気持ちはわからんでもない。」
 高井「俺らが1年のときは、一つ上が二人いたけど、両方一年で山スキーやめたね。」
 新井「それはもったいない。」
 —1年目は選択を余儀なくされているわけか。大変や。しかしこの話題は避けるべきやったな。(笑)

4年目のデータファイル

表1 山スキーカ (クロカン調べ)



ターンカ：思い通りに曲がれるか。
 急制動力：思い通りに止まることができるか、転んでいる人に雪をかけられるか。
 道具愛着力：自分の道具にどれほど愛着がわくか。
 小屋依存力：Ⅲ段階の山小屋をどれだけ利用し、もう一度利用したいか。
 深雪愛着力：パウダースノーをどれだけ食べつくせるか。コース外にどれだけ足を運んだか。
 山スキー夢中力：頭の中にどれほど山スキーのことについているか。

表2 思い出キーワード (クロカン調べ)



表3 山スキー参加率 (クロカン調べ)



表1：6つの項目について本人に直接アンケートを取った結果です。安定感のある高井、極端な傾向には新井と理解できます。
 表2：山スキーヤーとしての二人の印象を、様々な人にクロカニストが聞き取り調査し、代表的なものを3つ取り上げました。
 表3：今年二人がどのくらい山スキーの活動に参加するかを、クロカニストが調査し、計算した結果です。新井は期待はずれですが、高井の勇姿がまだまだ見られるようです。

1：さくらさんは山スキーOBで、ここ数年歩く会の新設説明会で使われていたビデオを撮影・編集した。ホームページで鑑賞できる。

4年目は、

ただのおっさん

一さて、私らはもう4年目ですが、今はどういう心境ですか？

高井「うーん、あんまり現役と変わらない。4年目になったら例会なんてあまり行かないと思ったけど。」

新井「お前は現役並に、いや現役以上に例会行ってるな。人数が足りないから参加した縦走は」

高井「なぜか石狩隊しか行かず。(笑)」

一ついてないな。私も人のこと言えんけど。」

新井「しかもシュナイダーで下るとは。(笑)これはすごいことだ。」

高井「そうか。じゃあお前はどのなんだ？」

新井「感慨深いものがあるよ。あと札幌にいるのも半年の命だ。本当にここにいたのかもわからない。」

一命とはおおげさやな。酔っ払うのもいい加減にしいや。

新井「すみません。まじめに答えませ。」

一では、今年の抱負を。

新井「今年は一本勝負の滑りをしたい。」

高井「一本勝負ってなにさ？」

新井「上から下まで止まらずに滑ること。」

一なるほど。ほな高井君は？

高井「俺は無意根に行けたらそれでいいや。」

新井「CLで行くの？」

高井「いや、Mで行きたい。(笑)」

新井「Mは楽だもんな。」

一君達おっさんやな。

新井「おっさんで何が悪い?! トイレ行ってくるわ。」

高井「いっトイレ。」



高井が行きたがっている無意根山の様子。大きな斜面が待ち構えている。

写真：前田さん



インタビューが行われた当日の様子。新井は酔っ払っていたが、高井は冷静だった。

写真：前田さん

迷っているなら、

高井に聞け

一さて、そろそろまとめに入ろう。二人は今年どれくらい山スキーに参加すんの？

新井「気分次第だね。計画に行くよりも、違う分野でサポートしたい。」
一例えば？

新井「それは教えられないよ。」

一もったいぶんなよ。まあいいや。
高井は？

高井「あんまり！段階には行きたくないね。面倒。」

新井「お前それでも後期会長か？」
一まあいいんじゃない。俺の分も頑張ってくれ。では、最後の質問だ。

1年目にメッセージを送ってやって

くれ。

高井「まあ悩んでいるなら俺に聞いてよ。」

新井「んじゃ俺の所には来ないでね。(笑)」

一以上が当日の内容である。本当はもっと長かったのだが、クロカンのイメージダウンにつながるという声があったため、省いた。

4年目についての基本的な理解は、新井がパウダースノー大好き、高井はオールラウンドもしくはよくわからない奴、という程度で結構である。気になったら高井に聞くのが良い。

最後にインタビューに協力していただいたクロカニストに感謝を申し上げたい。ありがとう。

文責 新井